

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		①作成日	令和 8 年 4 月 02 日
②法人・団体名	特定非営利活動法人 regional childcare support こはく		
③団体所在地	〒377-0205 群馬県渋川市北牧 502-3		
④責任者氏名	進藤由紀子	(役職名等)	代表理事
⑤担当者氏名	同上	(役職名等)	同上

【奨学活動の概要】					
⑥助成交付決定番号	R07-015	⑦助成金額	100 万円	⑧申請カテゴリー	D
⑨奨学活動名	学校での学習内容の習得や家庭生活に困難を抱える生徒たちへのこころと学習の支援活動				
⑩主な実施場所名・及びその住所	渋川教室(群馬県渋川市渋川)、富岡教室(群馬県富岡市) 各家庭(安中・富岡、吉井、渋川等)				

⑪活動内容とその成果の概要

○学びたい子どもたちへの学習支援時間の確保

・独自に考案した無料学習チケットを毎月配布し、子どもたちが補習・テスト勉強・カウンセリングなどにおいて、子どもたちが必要な時に無料で自由に利用できる機会を作る事ができた。

○個別支援の学習時間の充実

・基本的・基礎的な学習の定着をさせるための補習の時間の確保をさせるために、料金の心配なく、子どもたちに躊躇せずに取り組ませることができた。

・特別支援学級の生徒は、学校の進路指導では、公立高校への進学を断念するような進路指導が行われているが、どうにか公立高校への進学をしたいという保護者や生徒自身の願いを叶えたいと本団体を利用する生徒がいるため、かなりの学習支援時間を必要とするため、助成金を活用させていただくことで多くの時間を費やすことができた。

○進路指導のための、保護者・生徒との話し合い活動の充実

・保護者との話し合いは、助成金の活用で料金などを気にせず、個々に応じて必要な時にカウンセリングを行う活動ができた。本人の願いと家庭での話し合いなどについての助言や提案を継続的に行えた。

⑫奨学活動の定量的把握 (注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3-2 等でご報告願います。)

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	180	3	540	10 人 x 2 日(週) x 9 カ月
高校生等	36	3	54	3 人 x 2 日(週) x 9 カ月
大学生等	18	3	27	1 人 x 2 日(週) x 9 カ月
学習支援員 1	2520	3	7560	14 人 x 5 回(週) x 4 回(月) x 9 カ月
学習支援員 2	144	2.5	360	4 人 x 1 回(週) x 4 回(月) x 9 カ月
合 計			8676	

令和7年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：学校での学習内容の習得や家庭生活に困難を抱える

生徒たちへのところと学習の支援活動

法人・団体名：特定非営利活動法人 regional childcare support こはく

作成者 氏名：進藤 由紀子

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

課題○受験に必要な学習内容の習得の定着のための時間の確保

○生徒・保護者との進学に対する思いの確認・助言をする時間の確保

2. 実施した奨学活動の詳細

実践内容

○毎月「無料学習支援チケット」を配布し、子どもたちや保護者が必要な時にそれを活用し、必要な時に必要な支援を行った。

○受験に必要な学習内容の定着をさせるためには、かなりの時間を要する。特別支援学級の生徒においては、小学校の際からの終了しているはずの学習指導をしてもらえてない子も多く(教えてもらった記憶がないという子が多い)、その子たちの学力を受験に対応できる能力まで引き上げることはとても大変である。そのため、一人ひとりの学習意欲を高めたり、保護者の家庭での関わり方や取り組ませ方などの助言を行い受験に臨ませることが必要となる。助成金の無料チケットの活用により、家庭での支出を抑えることができたので一人ひとりに必要な指導、助言を毎月継続的に行う事ができた。

○高校生においては、本人の希望などを聞きながら、進学先の決定の助言などを行うことができた。高校生は、バイトなどをしている子もいて決まった時間に必ず来るということを強制することをせず、無料チケットを活用することで、本人が可能な限り利用できる状態にしてあげることで有意義な時間を過ごすことができたようである。

○入試が初めて、受験生を抱える保護者としての不安などを聞き取り、子どもたちに最善である進路指導と一緒に考え、家庭でできる助言方法や支援方法も伝えることができた。

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

○毎年受験生と向き合い、悩みもそれぞれであり、個々に必要な時間が異なる。また、生徒たちに学習の必要性を伝えることもとても難しい。無料学習支援チケットの配布により、生徒たちに自分の意思で学ぶという意識を持たせることができたことはとても良かった。

○生徒それぞれに必要な学習課題が必要であり、教材の準備などにもとても時間を要し、その教材も膨大になる。指導者としてもそれらを助成金の活用することにより、集中して行えることができた。

○今年度は、特別支援学級の生徒の主な進学先になっている高校の先生と面会し、話すことができた。高校の考え方を聞き、今後の支援活動に活かしていきたいと思う。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

○子どもたちに対する支援は国の法律等が改正されたりして充実しているように見える。が、子どもたち・家庭での支援の以前に、それらを支える者のための支援は何もない。本団体が行っている学習支援は、ただ勉強を教えるという活動ではなく、子どもたち・保護者との関わり方には非常に難しい。肉体的労働とは違い、精神的労働は知らず知らずに指導者の心の疲労がある。支援者に対する支援をしていただける助成金があるべきと考えているので、とてもありがたい助成金でした。ありがとうございました。